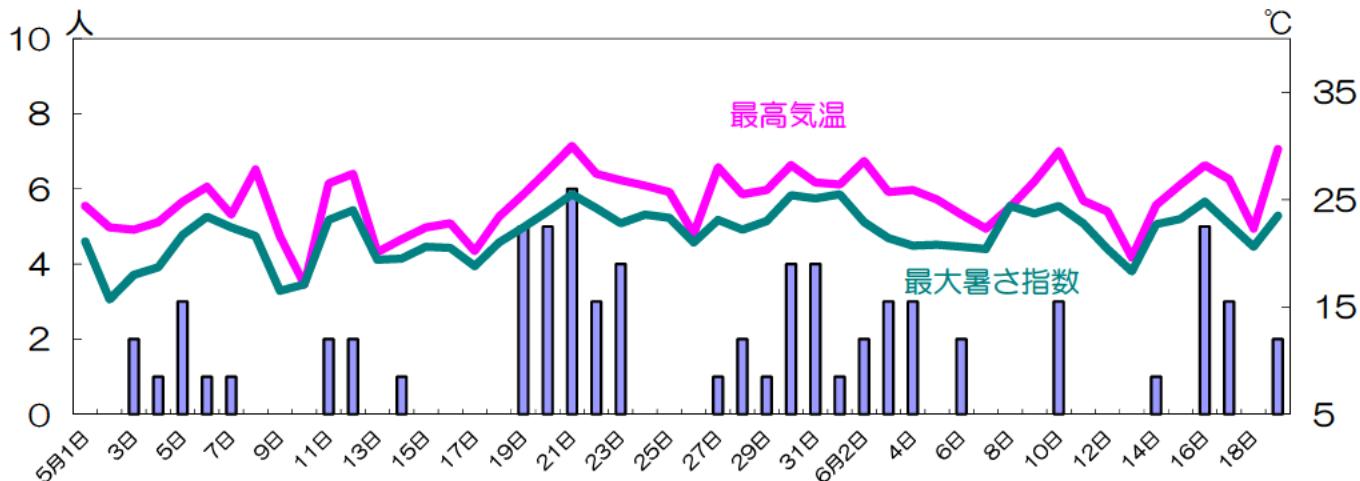


熱中症情報

＜搬送数＞

平成29年5月1日～6月19日までの搬送数（消防局データを使用）は、計73人（5月48人、6月25人）でした。熱中症は、梅雨入り前の5月ごろから発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さになれていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温は28℃を超えないように調節し、暑さから身を守りましょう。



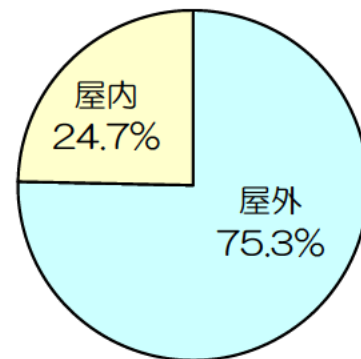
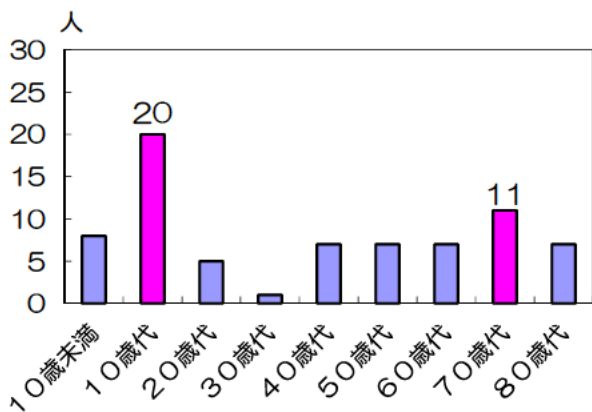
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①気温 ②湿度 ③輻射(ふくしゃ)熱の3つを取り入れた温度の指標
詳細は「環境省熱中症予防情報サイト(暑さ指数(WBGT)とは?)」をご覧ください。

＜年齢別＞

年齢別では、10歳代が27.4%と、一番多く、次に70歳代が15.1%でした。

＜発生場所＞

屋外75.3%、屋内24.7%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度＞

軽症68.5%、中等症30.1%、重症1.4%、重篤0%でした。
高齢者（65歳以上）になると、中等症以上の割合が増加し、重症化の傾向が伺えます。

